

A large, ornate white flourish with intricate scrollwork and flourishes, framing the text.

25th  
Regular Concert

*Kobe Univ. Symphony Orchestra*

# 第25回定期演奏会

昭和50年12月17日(水)

神戸文化ホール

神戸大学交響楽団

# プログラム

ワグナー

楽劇「ニュルンベルグの名歌手」

第一幕への前奏曲

指揮 奥田伸悟

演奏 響友会有志

シューベルト

劇音楽「ロザムンデ」序曲 作品26

指揮 武田之通

— 休憩 —

ベートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調 <合唱> 作品125

指揮 岡田司  
独唱 矢野蓉子(ソプラノ)  
近藤道子(アルト)  
林誠(テノール)  
三室堯(ベース)

合唱 神戸大学グリークラブ  
神戸大学混声合唱団アポロン  
神戸女子薬科大学コーラス部  
神戸山手女子短期大学コーラス部  
甲南女子大学コーラス部  
松蔭女子短期大学コーラス部  
神戸海星女子学院大学グリークラブ

合唱指導 桜井武雄

名曲  
珈琲

# さんぷる

神戸三宮トアロード高架上ル東

TEL (331) 0281



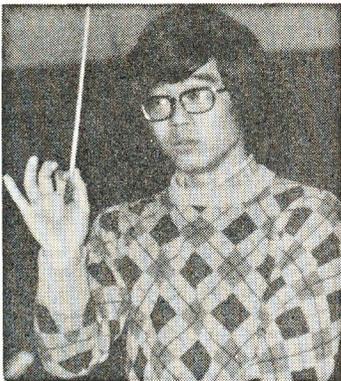


## 指揮者 岡田 司

神大オケが彼の指揮で演奏するようになってから早くも3年が過ぎました。その間数々の作品を手がけてきましたが、今年はその総決算ともいべき第九に彼の卓抜した棒さばきが縦横に発揮され、昨年の幻想、今夏のベートーベン8番に続いて、また1つ神大オケの1ページを飾るにふさわしい演奏が生まれる事となるでしょう。

彼は練習における厳しさからは想像もできないようなユーモラスな一面も持ち、家が大阪方面なのにもかかわらず、練習のあとには三宮界限を彷徨する彼とその一味の姿が必ずと言ってよいほど見られるのである。また、今年は定演のポスターにも彼の指揮姿が登場し、巷ではあちこちで彼の顔が出没しまくっていたのである。

<略歴>フルート、ピアノ等を学び朝日ジュニアでオーケストラ活動に参加。その間作曲理論、指揮に本格的な興味を抱き後に斉藤秀雄氏らの教えを請うことになった。



## 指揮者 武田 之通

あれは去年の春、天気の良い朝だった。いつものように六甲の坂を大学めざして登っていると新入部員らしい男が目の前をとぼとぼ歩いていた。それは2・3日前入部したファゴットの武田だった。即座に私の教科書を彼にゆずる話がまとまり、彼は涙を流して喜んだ。それが富山の寒村から都会に出てきて他人の好意にふれた彼の最初の体験だった。私はそのときからこの青年に興味をもった。後になって分った事であるが、彼はレコードをかうために相当の食費をつぎこんだので、今のようなみすぼらしい体格になった。毎夜、彼は暗いアパートの一室で一人音楽にひたっている。その一見淋しそうな後姿も、その音楽の喜びのせいか、背中だけは笑っているようだった。

そして今日、彼は第九でトップを吹き、ロザムンデを指揮するのである。



## コンサートマスター 黒田 尚子

指板の上を一分の狂いもなく駆け巡るあの華奢な指。その指が、優しさと厳しさ、寛容と繊細の混沌の中から選り抜いたような深淵な音色。些細な事には堂じないあの体全体から湧き出る力強い響きは、聞かざる者をして心の奥底からゆきぶらせしめる不思議な力をもっているのです。

演奏する時の真剣さ、正確さは群を抜いており、絶えず変化するリズムをも素速くキャッチし、スポーツ万能の彼女らしくリズム感あふれる身のこなして虚飾なく再現する姿、また矢のごとくふりかかる指揮者の無理難題な要求にも即応し適切なアドバイスで団員をリードしてゆく姿には思わず頭が下がるのです。彼女の頭は至極合理的に出来ており、練習と勉学の合間をぬって洋裁、編物もすべてこなすスーパーレディーなのです。

去年はマネージャーとして、今年のはもはや老化しきった他の四年生をしり目に紅一点、苛酷な責務を果たされ本当にご苦労様でした。



### ソプラノ 矢野 蓉子

「カバレリア・ルスチカーナ」のローラ、「椿姫」「コシ・ファン・トゥッテ」「赤い陣羽織」の奥方等に出演。

1966年第1回リサイタルを開催し大阪文化祭賞を受賞。

大阪フィルとは「第九」でたびたび協演。

張りのある豊かな美声は定評のあるところ。

大阪音楽大学卒、鈴木田鶴子、ニコラ・ルッチ氏に師事。

大阪音楽大学勤務、関西歌劇団々員。



### アルト 近藤 道子

「フィガロの結婚」のケルビーノ、マルチェリーナ、「椿姫」のアンニーナ、「トロバトーレ」のアズチェーナ、「お蝶夫人」のスズキ等に出演。

コメディ・フランセーズ、イタリアオペラと協演、ドボルザーク「スタバートマーテル」、ベートーベン「第九」等で大阪フィルと協演。

大阪音楽大学卒、関西歌劇団々員。



### テノール 林 誠

大阪音楽大学、大学院を修了。1971年関西歌劇団公演の「カバレリア・ルスチカーナ」のトゥリッド役でデビュー。「本格的テノールの出現」と大きな話題を呼んだ。「カルメン」のホセ、「オテロ」のオテロ、「トロバトーレ」のマンリーコと立続けに主役を演じた。

その他創作オペラでは「赤い陣羽織」のおやじ等に出演。

1971年度イタリア声楽コンクールでシエナ賞を獲得して渡伊、72年の音楽コンクールでは第3位、73年のマダム・バタフライ世界コンクールでは日本代表として第4位、75年民音コンクール3位。オーケストラとは、年末恒例のベートーベン「第九」、その他オラトリオ等で数多く協演している。

文字通り明日を担う期待の大型テノールである。

大阪音楽大学勤務、関西歌劇団々員。



### バリトン 三 室 堯

「カルメン」のモラレスでデビュー。その秋「フィガロの結婚」のフィガロ、それ以後「椿姫」のド・フォル男爵、「ドン・ジョバンニ」のレポレロ、「魔笛」のパパゲーノ、「カバレリア・ルスチカーナ」のアルフィオ、「お蝶夫人」のシャープレス、「アイダ」のアモナスロ、「女はみんなこうしたもの」のグリエルモ、「トロバトーレ」のルーナ伯爵、「運命の力」のドン・カルロ、「ポセイドン仮面祭」の警察長官等に出演。又ベートーベンの「第九交響曲」ヘンデルの「メサイア」、ドヴォルザークの「スタバート・マーテル」、ハイドンの「天地創造」その他のソリストとして出演。

大阪音楽大学卒、関西歌劇団々員。

創立60周年記念ステージに寄せて

神戸大学交響楽団響友会常任理事

曾野健三（昭和39年卒）

創立60周年と申しますから当交響楽団は大正4年に誕生致しております。当初は上筒井台に於て神戸高商ワグナーソサエティーと称しており、以来今年で還暦を迎えた訳であります。これもひとえに御来演下さる皆様方の暖かい御支授と、現役諸君の不断の精進の賜であろうと思えます。一口に60年と申しましても、人生の折返し点を通過したばかりの私にとりましても感慨深いものがございます。この60周年を記念して、現役諸君は「歓喜」を準備してくれました。また、今日の演奏会には、その記念行事として、当交響楽団OB（響友会）を中心とするメンバーによる演奏を加えさせて頂いております。勿論現役諸君にも各パートに多数応援を頂きました。

昨年11月から準備を進め、約1ケ年、勤務のかたわらOB諸氏は数年振り或は数十年振り以上のステージに向けて練習を積んだこととなります。このステージは学生諸君から見ますれば、年寄りの冷や水と映るかも知れません。しかし大正、戦前、戦後のOBが集まって1つのハーモニーを求めることは、音楽の美しさ、楽しさを求める人間の本性にかなったものではなかろうかと考えます。

演奏自体は現役諸君のそれとは比ぶるべくもなく、反面教師にすぎないでしょうが、このステージを機会に、OB諸氏と現役諸君の意志疎通のパイプが一段と太くなることと期待しています。神戸大学交響楽団も市民の皆様と共に音楽活動を深めて行くことを1つの目標に置いておりますが、OBの集りである響友会も積極的に、その活動に協力して行きたいと願っております。

最後に御来演の皆様方の御来聴に御礼申し上げると同時に、OBステージに終始変ることなく積極的に御協力頂きました神戸大学交響楽団の皆様、及び、音楽活動に日夜多忙な身であるにも抱らず、快よく指揮棒を取ってくださった当会の一員である奥田信悟君に深く感謝の感を捧げたいと存じます。

響友会記念ステージ実行委員

鳥丸安雄（昭和44年卒）	児島謙太郎（昭和34年卒）
武貞延也（〃37年卒）	曾野健三（〃39年卒）
浦井勲（〃42年卒）	鈴木隆（〃50年卒）



山村 聡



深い味わいにナルホドと  
うなずける逸品——日本盛。

**日本盛**

西宮酒造株式会社

# 定演24年の歩み



<b>第1回</b> 1951.11.25	モーツァルト ハイドン グリーク ビゼー	交響曲第41番「ジュピター」 ピアノ協奏曲ニ長調 「パールギェント」組曲 「アルルの女」組曲	親和高女	<b>第13回</b> 1963.12.10	モーツァルト チャイコフスキー ドヴォルザーク ガーシュイン	歌劇「後宮よりの逃走」序曲 ヴァイオリン協奏曲 交響曲第9番「新世界より」 「ラブソディ・イン・ブルー」	国際会館
<b>第2回</b> 1952.11.30	シューベルト ウェーバー ヴェルディ J. シュトラウス	交響曲第8番「未完成」 ピアノ小協奏曲 歌劇「アイダ」大行進曲 ワルツ「南国のぼら」 「朝刊」	六甲台講堂	<b>第14回</b> 1964.11.30 12.1	ヴィヴァルディ モーツァルト ベートーヴェン 外山雄三	二つのヴァイオリンのための協奏曲 ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」 交響曲第5番「運命」 ディヴェルティメント	大阪産経ホール 国際会館
<b>第3回</b> 1953.6.14	ベートーヴェン サン・サーンス シベリウス	交響曲第1番 ピアノ協奏曲第4番 フィンランディア	六甲台講堂	<b>第15回</b> 1965.12.9	ワーグナー チャイコフスキー ベートーヴェン ベートーヴェン	「ニュールンベルグの名歌手」前奏曲 「白鳥の湖」より ピアノ協奏曲第3番 交響曲第3番「英雄」	国際会館
<b>第4回</b> 1954.12.13	ベートーヴェン ハイドン ビゼー メンデルスゾーン	「エグモント」序曲 交響曲第100番「軍隊」 「カルメン」第1組曲 ピアノ協奏曲第1番	六甲台講堂	<b>第16回</b> 1966.12.6	ウェーバー リスト ヘンデル シューマン	序曲「オリアンテ」 ピアノ協奏曲第1番 組曲「王宮の花火の音楽」 交響曲第3番「ライン」	国際会館
<b>第5回</b> 1955.11.27	チャイコフスキー ショパン ベートーヴェン	「眠れる森の美女」 ピアノ協奏曲第1番 交響曲第5番「運命」	海員会館	<b>第17回</b> 1967.12.8	ベートーヴェン ベートーヴェン モーツァルト フランク	「フィデリオ」序曲 ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 セレナータ・ノットゥルナ 交響曲ニ短調	国際会館
<b>第6回</b> 1956.12.2	J. シュトラウス モーツァルト グリーク チャイコフスキー	歌劇「ことうもり」序曲 交響曲第38番「プラーグ」 ピアノ協奏曲 「白鳥の湖」より	海員会館	<b>第18回</b> 1968.12.10	ブラームス モーツァルト シューマン	悲劇的序曲 交響曲第36番「リンツ」 交響曲第4番	国際会館
<b>第7回</b> 1957.12.2	ウェーバー ラフマニノフ ドヴォルザーク	歌劇「魔弾の射手」序曲 バガニーニの主題による狂詩曲 交響曲第9番「新世界より」	新聞会館	<b>第19回</b> 1969.12.15	ベートーヴェン シベリウス ブラームス	エグモント序曲 ヴァイオリン協奏曲 交響曲第2番	国際会館
<b>第8回</b> 1958.11.28	グリンカ サン・サーンス ベートーヴェン	歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲 ヴァイオリン協奏曲第3番 交響曲第3番「英雄」	国際会館	<b>第20回</b> 1970.12.12	モーツァルト ムソルグスキー ショスタコヴィッチ	歌劇「魔窟」序曲 交響詩「禿山の一夜」 交響曲第5番	西宮市民会館
<b>第9回</b> 1959.12.4	グリーク サン・サーンス ベートーヴェン	「パールギェント」組曲 ピアノ協奏曲第4番 交響曲第5番「運命」	国際会館	<b>第21回</b> 1971.12.6	シュトラウス 奥田伸悟 ショパン チャイコフスキー	喜歌劇「ことうもり」序曲 交響的形容「沈黙の残部」 ピアノ協奏曲第1番 交響曲第5番	国際会館
<b>第10回</b> 1960.12.7	ニコライ ベートーヴェン チャイコフスキー	歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲 ピアノ協奏曲第5番「皇帝」 交響曲第5番	国際会館	<b>第22回</b> 1972.12.16	ワーグナー ベートーヴェン	「ニュールンベルグの名歌手」前奏曲 交響曲第9番「合唱つき」	国際会館
<b>第11回</b> 1961.12.6	ビゼー グリーク ベートーヴェン	「アルルの女」組曲 ピアノ協奏曲 交響曲第7番	国際会館	<b>第23回</b> 1973.12.21	チャイコフスキー ハイドン ブラームス	スラブ行進曲 交響曲第104番「ロンドン」 交響曲第1番	神戸文化ホール
<b>第12回</b> 1962.12.4	ワーグナー サン・サーンス モーツァルト チャイコフスキー	「ニュールンベルグの名歌手」前奏曲 ヴァイオリン協奏曲第3番 交響曲第35番「ハフナー」 イタリア奇想曲	国際会館	<b>第24回</b> 1974.12.13	ベルリオーズ ベートーヴェン ベルリオーズ	ラコツィー行進曲 ピアノ協奏曲第1番 幻想響曲	神戸文化ホール